

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

記入日:	2024 年 12 月 11 日
事業所名:	夢門塾ゆうゆう浅口

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	0	1	4	利用者数が増え、狭く感じるが増えた。活動内容は安全面に考慮し検討している。
	②	職員の配置は適切である	5	0	0	人数は足りているが子供の人数に対して職員が少ない部屋が発生するケースがある。全職員が子供の動きを把握しながら臨機応変に対応できるよう心がけている。
	③	衛生面の管理が行き届いている	4	1	0	なかなか掃除が行き届かない場所(高所・狭所など)がある。時間にゆとりがある際、掃除に時間をかけるように心がけている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定を振り返りに)、広く職員が参画している	5	0	0	正社員は朝礼時に情報共有しており、出勤時間の異なるパートタイム職員には口頭伝達と書類確認の併用を実施している。
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	5	0	0	例年通り実施し、取り入れるべき案は柔軟に取り入れていく。
	⑥	自己評価の結果を公開している	5	0	0	例年通り実施している。
	⑦	職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	5	0	0	社内・社外の研修に参加している。事業所内の会議は職員全員が揃う機会が少ないが、事業所内ミーティング等を含め職員の資質向上を促すべく動いている。
適切な支援の提供	⑧	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	5	0	0	PDCAサイクルで実施している。
	⑨	活動の計画をチームで行っている	5	0	0	正社員を中心にパートタイム職員も意見を出しながら計画している。すべての曜日で活動が円滑に進行できるよう、話し合いを重ねている。
	⑩	活動の計画が固定化しないよう工夫している	5	0	0	イベント・運動プログラムにて新しい活動を導入しており、利用者が飽きない工夫を行っている。
	⑪	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	4	1	0	活動内容は変えているが、課題の細やかな設定ができていない場合がある。計画段階で目的を明確化し、支援に活かしていく。
	⑫	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	3	2	0	集団活動が難しい子供に関しては個別対応を心がけていく。専門職の意見も取り入れながら活動内容を見直していく。
	⑬	支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	0	出勤社員間で毎朝、情報共有している。出勤時間の異なる職員(パートタイム)などには書面や口頭で出勤時に伝えている。
	⑭	日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1	0	利用者数が多い際、リアルタイムでの記録を取り切れていない場合がある。定期的に記録を残すか、別紙メモを書き残すなどの対応をしている。
	⑮	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	半年に一度のモニタリングを実施し、評価を行い見直しを実施している。また、モニタリング外でも保護者からの相談や相談支援事業所からの情報を柔軟に受け入れ、支援計画に反映させている。
	⑯	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	0	0	その都度、不明点があれば確認しながら支援を行っている。

関係機関、保護者様との連携	17	学校との情報共有(年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	0	毎月の行事予定を配布して下さる学校が多くあり、急な下校時間の変更等についても連携が取れている。また、当日の学校での様子を口頭で送迎の際にお伝えくださる先生もいらっしゃる。
	18	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている	1	4	0	学校や相談支援事業所とは綿密に連携を取り、連絡を取り合っている。
	19	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	0	5	0	前例なし。
	20	児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	0	児童発達支援センターや相談支援事業所などと連携している。必要に応じて助言を受けたり情報共有を行っている。
	21	日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	5	0	0	コドモンや連絡帳で日々、子どもの状況は報告している。発達状況や課題については保護者との対面時に報告している。
保護者様への説明責任等	22	運営規定、支援の内容、利用者負担等に付いて丁寧な説明を行っている	5	0	0	いずれも契約時に説明をしている。その他の内容についても、随時、質問に応じるかたちで対応している。
	23	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	5	0	0	対面、電話、書面など保護者様のご都合に合わせて対応している。
	24	保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	5	0	0	夏に保護者参画型のイベントを実施した。
	25	子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	苦情が発生した場合、速やかに職員同士で状況の確認や今後の対応について相談することができている。
	26	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	5	0	0	夢だより(会報)夢通信(行事予定)を紙媒体で発行している。ブログで活動の様子も発信している。
	27	個人情報保護に十分注意している	5	0	0	書類は事業所内に保管し持ち出し厳禁を維持している。職員は就職・退職の際、個人情報保護厳守の誓約書を提出している。
	28	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	必要に応じて個別に絵カードや文字カードを使用している。言葉で伝える際にはジェスチャーを含める等、有効な言葉かけの方法を検討している。
	29	地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている	5	0	0	今年度は地域の祭りに子どもたちを連れて参加したり、神輿の通行ルートに当事業所を入れてもらい、地域と子ども達が関わる時間を持つことができた。地域のお祭りにも参加しており、交流を図っている。
	非常時などの対応	30	緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	5	0	0
31		非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	5	0	0	毎年、避難訓練を実施している。今年度も1月に実施予定である。
32		虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	0	虐待防止の研修に参加している。
33		いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	5	0	0	現状では自事業所で身体拘束の必要なケースはない。契約時に身体拘束の必要な場合についての説明は実施している。
34		保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	5	0	0	必要に応じて実施しているが、今年度は実施なし。常用的に服用している薬の変更などの情報提供がある際には施設内での子供の様子の変化を注視した。
35		ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	5	0	0	事業所内で実施、共有している。また、他職員が「ヒヤリハットに該当するのでは」と感じた場合、当事者となる職員に声をかけ、状況を知らない職員にも口頭でも状況の共有を行っている。

保護者様評価、自己評価についてまとめ

昨年度に目標として掲げていた保護者参画型のイベントを実施することができた。活動内容に関しては引き続き安全面を考慮しながら内容拡充を目指す。室内環境に関しては保護者、職員共に「狭い」と感じている。利用者が増え、手狭な環境は改善できなかったが、安全面を考慮したプログラムを提示し、安心して過ごせる環境を整えていく。保護者の方に子ども達の状況や活動内容が上手く周知できていない場合があるため、積極的に公開をしていくとともに、職員の資質向上を第一目標に児童指導員や専門職が共に活躍できるよう職場環境を改善させていく。